

---

# 剣と、魔法と、そして明日と

涼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

剣と、魔法と、そして明日と

### 【Nコード】

N8819X

### 【作者名】

涼

### 【あらすじ】

異世界ファンタジーもの。

三人の主人公が色々な問題に関わります。あるときはぶち壊し、あるときは命を奪い、あるときは再生を促します。

幼馴染である三人は様々な経験を積んでいき、不本意にもこの世界の真理へと近づいていきます。

三人ともカテゴリは違いますが最強の部類です。ちなみに転生ものではありません。

適度なシリアスと適度なコメディー入れてく予定ですが、戦闘シー

ンが血生臭かったり、ちよっぴりエツチなシーンがあったりするの  
で生理的に受け付けない方は注意して下さい。

## プロローグ

俺は感じたい。俺が俺である意味を。

僕は触れたい。この世界の闇を。

私は知りたい。繋がりやの楔が在る場所を。

俺達には明確な目的は無い。だって霞せんで視えないから。

僕達は選択して行くのだろう。結果としてそれは復讐むじゅうなのかもしれない。

私達は踏み出すべき場所にいる。誰かに指図しずされるのでは無く自分が決めるんだ。

何かに縋すがりつくのはもう止めよう。

ここは異世界サークレイン。

海で隔たれた五つの地域を擁する、剣と魔法の世界。

この世界では人族、獣人族、竜人族、エルフ族など様々な種族が存在しており、各種族は自分達のテリトリーを守り、そして協力し合いながらその日その日を生きている。

そんな市井の生活環境は場所によって格差はあるものの、安定しているといえるだろう。

その最たるものは魔耀石まようせきと呼ばれる魔を有する鉱石の利用である。

魔耀石は魔耀制御器コントローラーを介して魔力をエネルギーとして活用する事が可能である。

それは生活面のみならず戦いにまで利用が可能となっている。いや、寧ろ戦いでむじの利用から市井の生活をサポート出来るまでに至ったといえるだろう。

魔耀石が発掘される耀鉱山ギョウコウサンは世界に確認されているだけで十二か所。

この鉱山を自分の国の領土にしようと各地域で小競り合いレベルの小規模な争いから、戦争と呼べる大規模な争いまでもが今日こんにちも繰り広げられている。

その結果、各々は魔耀石を軍事利用する為の研究に力を入れ、現在の生活を得るまで発展を遂げた。

皮肉にも戦争が技術発展を促す。それはどこの世界でも変わらない。

痛みを覚えなければ先に進めない。そんな自分達は本当に未熟で救えない生き物なのかもしれない。

ウエス地域の三大王国のひとつ。南側に位置するディタイム王国。その王都より30?ほど離れた耀鉱山ノーヴェに近い耀鉱都市バブルゴでこの物語は始まる。

三人の男の子。彼らは偶然にも別々の場所で空を仰いでいた。

## 第1話

おれが目をさますと、このへやに入るまえはまっ白だったかべとかゆかは、自分の口とか、からだから出たものでよごれていた。

きおくにはないけど、あばれたあともある。

まあこれはいつものこと。でも今日は良いほうだと思う。えらいなおれはー。

シヨウは勢いよく飛び起きた。

自由な時間になった嬉しさからか足取りは軽く、ステップ混じりに部屋の扉へと向かった。

金色に輝くツンツンのシヨートヘアが小気味よく揺れる。

眉が薄く、目は少し吊り目気味で8歳ながら若干の威圧感はあるが、左の八重歯と大きな茶色の瞳が雰囲気柔らかくさせている。

天真爛漫な悪戯っ子。彼はそのイメージそのままだ。

扉に手を掛けるシヨウ。いつもの事ながらロックされていて開かない。

正直言うと、こんな扉は力尽くでも開けられる。

ダメージを抑える為の魔法陣も展開されているが、そんなもんは自分には関係無い。

しかし研究所を破壊してはアウストに叱られるのは目に見えている。

アウストにおこられるとかこわすぎるもんね。

仕方なく部屋の天井近くある横幅に広い鏡を見上げた。

こちらからは向こう側は見えない。

鏡の後ろにいると思われる研究者に向かって無言のお願いをしてみた。

見張りを続けていた研究者から、やっと起きたかあ〜と溜息交じりの不満が漏れた。

勿論、所長や主任が居る所でそんな事は言えないが、この場に居ない人間に気を使う必要は無い。

寝ている時に何かしらの反応や異変が起こるかもしれないから見張つとけとの指示。

正直、寝ていて（気絶していて）全く変化の無い子供を見続ける時間は苦痛で仕方が無い。

そんな事は露知らない当事者は外に出たがっているようだ。

しかし悪いが簡単にはこの防護研究室からは出せない。

自製の利かない破壊兵器が研究所内部を自由に彷徨うろたっていたら安心して研究なんて出来やしない。

己に制御の出来ない力は己に害を及ぼす。

指示を仰ぐ為、この無邪気な破壊兵器を手懐けている彼に電話を掛けた。

そう、もう一人の破壊兵器に。

「番号ですか？陸号ろくごうが起きました。……ええ、はい。……いや、しかし。……はい。わかりました。」

眉を顰ひそめながら電話を切る。

何かあったら責任は私が取るだと？そんな権利は兵器になんてあるものか。

前大戦で戦果を挙げたからといって何を偉そうに。

だからと言って職務を放棄する事は赦されない。

拡声器のスイッチを入れる。

「ロックを解除します。番号が私室で待っているので向かいなさい。寄り道は認めません。」

研究者の声を聞いたシヨウは露骨に顔を顰めた。

いち号じゃなくてアウストだよ。それにおれはろく号じゃなくてシヨウだから！

しかし相手にされないと判っている、というか経験から学んだので口には出さないが腹は立つ。

ガチャツ。と遠隔で解除された扉を壊さない程度に乱暴に開け閉めしてやった。

ちなみにマイクを使った拡声器や遠隔ロック解除などは共振耀石を応用したものである。

この技術は最近確立されたもので、実装されているのはバルゴ研究所のみ。

バルゴ研究所の最高責任者であるシアン所長の開発だとされている。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8819x/>

---

剣と、魔法と、そして明日と

2011年10月29日15時17分発行